



## モンゴルの空で…

学校法人聖和女子学院中学校 3年 大浦 向日葵

自然が豊かで美しいモンゴルは私に時間を忘れさせました。

私は、今まで日本が行っているモンゴルへの国際協力をあまり知らずにいて、モンゴルは近いようでどこか遠い国だと感じていました。でもモンゴルを訪れた時、たくさんのモンゴルの人々から、日本人というだけで「ありがとう＝バヤッラー」と言われ、日本の技術は日本の発展だけでなく途上国のためにも役立っていることを知りました。私は日本人であることを誇りに思い、モンゴルをととても近くに感じるようになりました。

モンゴルの発展が遅れる原因は、冬がとても長く夏しか建築物が建てられないことや、中国とロシアからの圧力だと知りました。モンゴル人は日本人と祖先が同じだと思っているので、日本のように発展したいと願っています。モンゴルの若者は日本へ留学して日本語や技術を学び、自国の発展のために尽くしたいと思っているそうです。また、私が驚いたのは女性医師が78%も活躍していることや、英語より日本語のほうが通じることです。

私は念願だった遊牧民のゲルにホームステイし、夜空を見上げました。「空はたくさんの星が輝き、碧くて高くて広い…地球や宇宙はこんなに美しいのに…今この瞬間も同じ空の下で紛争やテロ、環境破壊や女性差別が起きている…」と涙がこぼれ落ちてきました。この夜空を見て、「世界中の人が憎しみや怒りや悲しみはちっぽけなことだと思えばいいなあ」と流れ星に願いを込めました。「今すぐに争いや環境破壊を止めなければならない。」と世界のリーダーたちには力強く行動してほしいです。私は満天の星空の下で、将来は平和や環境保全、女性差別の問題解決のために国際機関で働きたいという思いを新たにしました。